

## (別紙1) 令和4年度藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会 開催報告

### (1) 概要

議題	①第五次藤井寺市総合計画後期基本計画 重点戦略にかかる意見 ②第五次藤井寺市総合計画後期基本計画（施策全般）にかかる意見 ②第2期藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる意見 ③企業版ふるさと納税にかかる評価
開催形式	書面開催
回答期間	令和4年8月1日～令和4年8月26日
出席者	・大阪商業大学教授 加藤司委員 ・道明寺まちづくり協議会会長 中路新平委員 ・まなりんく協議会会長 西村剛委員 ・三井住友銀行 藤井寺エリア支店長 木下健司委員
欠席者	・藤井寺駅周辺まちづくり協議会会長 三宅一弘委員

### (2) 委員からの意見

#### ①第五次藤井寺市後期基本計画 重点戦略にかかる意見

##### <重点戦略1>子ども・子育て安心プロジェクト

施策名	子育て支援の充実
ご意見	<p>定員の拡充、病後児保育事業の継続、また藤井寺北幼稚園を統合するなど今まで実施できなかった事の実施など評価できる点も多い。</p> <p>ただし、藤井寺市を外環状線・大和高田線で区切った場合の北東・北西・南東・南西と分かれる地区のうち、南東部分については、第4保育所しか存在せず、また老朽化も進んでおり、常に言われていることではあるが改善が必要と考える。</p> <p>子育て世代へのサポートの充実は、今後の藤井寺市の未来にもつながるので宜しく願いたい。</p>
	<p>待機児童ゼロは、共働き世帯にとって住居選びの時の大きな判断材料の一つであり、藤井寺市は閑静でありながら阿部野へのアクセスが良い点が強みだと感じている。経済・ビジネスや教育・子育ての分野のイメージに課題があり、人口増加の観点にとどまらず、もっと対外的にアピールをしていくべきと思料する。</p>
施策名	学校教育の充実
ご意見	<p>コロナ禍という異質な環境も制度やルールを設定しているのは、社会であり学校現場であるため、下降や横ばいの現実を真摯に受け止め、未来にとって最も必要な子供たちの教育について検討を重ねてほしい。</p> <p>教員の負担を軽減し、授業準備や子どもたちとの交流の時間を確保できるように、スクールサポートスタッフのより一層の活用や地域の社会人指導者の活用をこれまで以上に進めていただきたい。ICT活用についても、教職員に専門的な知識を持たせるよりも、サポートできる専門的な知識を持ったアドバイスや事務作業軽減のスタッフを用意し、教職員の負担軽減を図るべきと考える。余裕が生まれれば、生徒たちの問題などの早期発見等にもつながると考えられる。</p>
施策名	緑とうるおいある環境の創出
ご意見	<p>遊具等のハード面の整備より、子供たちが自由に、子供たちの発想で遊べる場所を作ることが重要な気がします。そのための協力者の確保や制度づくりを検討して頂きたいです。</p>

<重点戦略2>まちなかにぎわいアッププロジェクト

<p>施策名</p>	<p>商工業の振興</p>
<p>ご意見</p>	<p>依然としてコロナの感染拡大が懸念される中で、計画された事業の規模縮小を余儀なくされたことは致し方ないと思う。一方で、HPやSNSなどを通じた広報活動に力を入れ、一定の成果をあげたことは評価される。なお、市内商工業者に対してアンケート調査を実施したとのことであるが、調査が目的ではなく、それを受けてどのような施策を展開するかが、問題。どのような実態→課題解決の方策の検討→策定まで進んだのか、記述して欲しいし、評価にも加えて欲しい。</p> <p>支援、対策ばかりではなく、まちのビジョン実現に向けた官民一体となった商工振興が必要だと思う。例えば、CO2削減を促進する容器の開発・普及に補助を出し、容器価格を引き下げ、共感する店舗に利用促進を促す等。</p> <p>創業・起業支援の推進において、創業スクールについては商工会、金融機関のみならず、大学等、学生も参加できる取組とするとともに、常設での拠点設置等も検討すべきと史料する。</p> <p>地域内の企業連携による情報提供など、事業者のキャッシュレスへの理解をより深める事で「コロナ対策・消費者の利便性向上」の2点から商店街や地域経済の活性化がもっと期待出来るのではないかと。キャッシュレス化の推進は、人材不足、コスト削減、データ活用による消費活性や新サービスの創出等恩恵が大きく、普及に向けてもっと力をいれるべきと史料する。</p>
<p>施策名</p>	<p>都市型農業の振興</p>
<p>ご意見</p>	<p>市民向けの貸農園は、都市景観を維持するうえでも、また需要もあり、今後とも力を入れてほしい。地元農家と連携した朝市やトラック市の開催は、ぜひ商店街で開催する(すでに実施されていたら、ごめんなさい。)など、農商連携も考慮されたい。また近年新規就農者が多い丹波市などを調査した経験からすれば、作物の品種だけでなく、有機農法など、新しい取り組みがあってはじめて可能になると考えられる。単なる数字目標を設定することは意味がないのではないかと。</p>
<p>施策名</p>	<p>観光の振興</p>
<p>ご意見</p>	<p>訴求する年代層を絞った「フジイデラライク」を活用した観光キャンペーンは、成功しているように見える。最終的には、来訪者がどのくらい増加したかが、評価基準になると考えられるが、とりあえずはその前段階の投稿数で評価すると、計画以上の進捗◎でも良いのではないかと。</p> <p>アイセルシュラホールの特異な外観を活かした拠点化の試みには興味を惹かれる。新商品の開発などと共に今後も期待したい。</p> <p>シェアサイクルの導入中止は寂しいながらも、現実的な判断かと思われる。担当課は異なるが、「もずふるレンタサイクル事業」と連携は測れなかったかという疑問を抱く。</p> <p>観光案内所の来館者数が、商品券の交換場所としてとはいえ増加しているの、このチャンスを活かし、来訪者数増加に努めてほしい。</p> <p>また電動キックボードについては、公道走行の法制化により周知が図られると思うが、危険性についての注意喚起が必要である。また藤井寺市内の大きな道路でも、道路自身はもちろん、路側帯の状態が悪く、タイヤの小さいキックボードは影響を受けやすいため、道路の改善も図っていただきたい。</p> <p>世界遺産である古墳だが、馴染みのない人が楽しめる観光コンテンツになっていない点や古墳関連市場がそこまで大きくない点、観光に不可欠な地域グルメ・物産の少なさに課題が残っているのではないかと。例えば、地産グルメの開発・スマホからVRで現地にて再現映像を楽しめるようにするなど、体験価値を高める取り組み等を学校や、地域内の企業連携するなどにより検討すべきと史料する。</p> <p>アイセルシュラホールの活用について、主に展示室と会議室としての利用で、活用不十分ではないかと。まずは人が集う場所にする必要あり。ホール内で定期市の開催や、駅からホールまでの経路、主に商店街の再生と幸國神社周辺の街おこしについて、学校連携や地域の特徴を生かしたコンセプト作り等々、大阪府下の「クローズアップ商店街」掲載自治体同様特色ある取組を検討すべきと史料する。</p>

施策名	世界文化遺産関連施策の推進
ご意見	トイレ等便益施設の整備について、NEXCO西日本の都合によるとはいえ、まったく進捗していないように見える。 案内板の設置を進めていただいているのはわかるが、表示が小さいものばかりと思われる。
施策名	にぎわい・交流拠点づくり
ご意見	土師ノ里駅、藤井寺駅の周辺については、再開発・再整備がすすめられたが、道明寺駅周辺については、狭い道路、駅前の人と車の接触の危険等、以前から変わらない。また、商店などの減少、空き地の増加が続く。駅前ながら、マンション、住宅地の建設が進む・計画されるという商業や観光客誘致に逆風が吹いている。 そんな中、地元の方々と道明寺駅周辺の再整備について協議会が作られ、基本構想が作成されたことは評価に値する。今後も、協議を進めるとともに、再整備に向けて実行されることを願う。
施策名	都市景観の保全・形成
ご意見	景観を意識した道路整備の補助金を活用し、上手く進められていると感じる。予算の問題があるかと思うが、東高野街道の舗装についても、途中までしか行われていないため、機会を見て進めていただきたい。

<重点戦略3>いきいき長寿プロジェクト

施策名	高齢者福祉の推進
ご意見	高齢者福祉をマスで捉える時代ではなくなっている。既存のサービス提供主体で完結するのは無理な気がする。柔軟な発想をより取り入れた施策の検討をお願いしたい。  ヤングケアラーの問題について、とりかかり始めたところであると聞いている。相談が多岐にわたり、人員的にも大変かと思うが、密な連携とサポートのもと、対応をお願いしたい。 認知症高齢者で親族のいない方に対する経済事犯が今後も増加すると考えられる中、対象者を掘り起こすことは難しいと想像されるが、地域等と力を合わせ、被害に遭う方を少なくするためにも、成年後見の利用を進めていただきたい。 コロナ禍のもと、認知症サポーター数が増加していることは評価できる。知ることから始まるので、中学生から学び、考える機会を持ってもらえることは貴重な事と考える。コロナ禍後も、目標値達成を進めていただきたい。  藤井寺市における持続的な保障のために、介護保険受給者本人のみならず、次世代を担うご家族も含め、将来の備えに自助、共助の取組を促すことが重要と考える。コミュニティの情報発信や地域内の企業連携によるセミナーの開催などで、市民の自助努力・意識向上をもっと進めてほしい。

<共通施策1>市民・行政のパートナーシップの確立

施策名	市民参画と協働の推進
ご意見	総合計画の審議会では、多様なボランティア団体を連携させる体制づくりが活発に議論されたが、そうした視点からの施策、評価がないのは残念である。  市民参画のための機会の創出ではなく、目的を達成するための機会の創出をお願いしたいです。ボランティアもボランティアのためのボランティアはあまり重要ではないと思います。

②第五次藤井寺市総合計画後期基本計画（施策全般）に関する評価

施策名	地域コミュニティ活動の推進
ご意見	新型コロナウイルス感染症下で、活動に影響がある中、コロナ対応の防災訓練など今後を見据えた活動が行われていることを評価したい。ただし、自治体加入率は常に下降線たどっており、難しいことではあるが、根本的な対応が必要と思われる。災害時等には特に必要な活動であるため、努力していただきたい。
施策名	道路整備の推進
ご意見	藤井寺市だけでなく、大阪府の道路舗装は、あまり良くない状況かと思う。予算的に厳しい中、努力いただいておりますが、高齢化が進み、小さな段差も大きな危険がともなう時代となった。財源確保に向けた努力を宜しく願いたい。
施策名	下水道事業の推進
ご意見	下水道事業については、使用料が目に見えるので、市民としては、今後の料金が気にかかる。記憶違いであれば申し訳ないが、水道事業が分離されるまでは、上水道料金は府下平均でそれほど高くなく、下水道は少し高い状態で、合計すると中庸であったと思う。今後、上水道の料金もどうなるか不明な中で、苦しいとは思いますが、市民への負担増加を避けていただけるようお願いしたい。
施策名	消費者保護の推進
ご意見	成人年齢が18才に引き下げられたタイミングで、消費者教育が実施されたのは評価されるべきと思う。今後も、進めていただきたい。 また、教育分野の事となり担当課は異なるが、金融リテラシーの教育は、高校生のみならず、中学生にも必要と考える。
その他	
ご意見	<p>例年と異なり、コロナの影響により、思い描く通りに進まなかったことも多かったことと思われ、そのご苦勞に感謝申し上げます。</p> <p>ただし、コロナを理由に「出来ない」と言うばかりではなく、ピンチをチャンスに変える方法もあると思われる。例えば世界遺産等については、外出できないことを逆手に取った映像コンテンツの充実をはかり、アフターコロナに向けた準備を進めるといったことに重点を置くことも考えられたかと思われる。</p> <p>また、ここでは出ていないが、ワクチンについては一般的な知識の普及・向上がなされたかと思われるので、コロナ以外のワクチン（例えば、子宮頸がんワクチン等）についても、併せて知識の提供、また接種率の向上に期待できる時期かと思われる。とはいえ、アイセルシュラホールの観光拠点としての活用が進められていたり、ICTを活用した教育環境の整備、キャリア教育の推進、いじめ対策なども進められている。一足飛びに施策が充実、進行しないのは仕方がないところである。それでも、暮らしやすい藤井寺、賑わいのある藤井寺を作っていくだけでいいように今後とも期待している。</p> <p>コロナ蔓延下において、市政や世界遺産である古墳の保全など、多岐にわたる取り組みが必要な中で様々な施策を実行している点は評価でる。コロナ禍でも工夫を凝らし、KPIに拘り、数字を伸ばした担当部局についてはメリハリをつけてしっかりと評価すべきと思料する。パンデミックや災害に備え、危機管理マニュアルやBCP(事業継続計画)の作成、感染症対策や各事業を尽力していただいたことは記録に残してほしい。市民の皆さんや職員の皆さんが頑張ってくれているおかげでその実績があるので、取組を広く周知してもらうためにも、良い所のPRはしっかりと願いたい。</p> <p>コロナ禍で人流の抑制等が行われるなど社会環境が激変し、指標の基礎となる人員動員や、予定事業中止といった影響もあり、指標に拘らずに多くの項目が「概ね計画通りだが、一部未実施、未達成」となっており、資料上での評価に困った。評価指標を弾力的に見直しつつ、コロナ禍でも評価指標が意味をなすように、それにより各事業が市民ニーズを汲み、少しでも事業が前に進むような評価指標、施策体系なり、評価体系を進めていただきたいと思う。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大による意識・行動など、生活様式、経済のあり様が大きく変化した。新しい社会環境に対応した評価指標や、施策の構築、見直しをもっと進めてほしいと思料する。</p>

②第2期藤井寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる意見

ご意見	<p>・地球規模の気候変動により、災害がいつ身近に発生してもおかしくない状況の中、防災ガイドの更新や危機管理体制の充実強化、また学校施設の耐震化や室内運動場への空調導入などが行われているのは安心につながり、評価できる。今後も、安全のための備えを進めていただきたい。</p> <p>・公共施設循環バスは、小さい市とは言え、重要な市民の足であり、鉄道・バスなどと共に今後の充実にに向けた動きを進めていただきたい。</p> <p>・スクールエンパワーメント研究モデル校の取り組みなど、児童・生徒の学力向上のための努力を強く願う。また、食育、特に朝食の大切さを伝えていただけているのは、評価に値する。</p>
	<p>取り組みの達成に関して、数字が振るわない項目での評価が昨年よりも厳しく行われていることは良い点だと思料する。</p>

③企業版ふるさと納税にかかる評価

評価 (委員A)	<p>未記入</p> <p>企業版ふるさと納税は、地元企業の地域社会貢献の一環として今後一層普及されるべき施策であり、多くの企業に対する周知を図ることで、利用企業を増やすべきと考える。また市民に対しても、寄付企業の企業名と事業内容を周知することで、藤井寺市、地元企業、市民が一体となった地域おこしが一層活発化することを期待したい。</p>
評価 (委員B)	<p>総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>新導入の機器により、利用者が傾向について注意するきっかけになればと考える。そのため、ワクチン接種会場やコロナ禍後のイベント、健康体操の会場などでも活用できれば、さらに効率的な活用ができるのではないかと考える。また、市民の目に、企業版ふるさと納税が活用されていることを見ていただくことにより、これまでのふるさと納税と共に周知されることを期待したい。</p>
評価 (委員C)	<p>現段階ではどちらともいえない</p> <p>受領日によっては、会計年度をまたいだ活用ができるような工夫等受け手の柔軟性も検討していただきたい。時限立法なのかは不明だが、継続されるのならば、地方にとっては自由度の高い予算になりえるので、より有効に使えるような制度設計を検討していただきたい。</p>
評価 (委員D)	<p>総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>藤井寺市で充実した生活を送っていただくために、健康寿命を延ばすことに加え、社会参画の場を設けることが重要だと考える。体カテスト導入の結果がデータとして揃っていないものの、今回の企業版ふるさと納税を契機に、今後の民間企業と連携した事業や啓発へ向けた取組拡充への意識醸成につながっていく第一歩と期待できる。その点において、今回の取組は大いに有効であるものと感じた。</p>